



特集 ODAを活用した 中小企業の海外展開 ～海外進出の手堅いメソッド～

今や、経済活動は世界の動向を無視しては成り立たないものとなっています。しかし、海外展開と聞くと、二の足を踏んでしまう方が、まだまだ多いのではないのでしょうか。

国際協力機構（JICA）では、4年ほど前から、ODAの枠組みを活用した事業として、中小企業の海外展開を支援しています。ODAと聞くと、大企業が行うものと考えてしまうかもしれませんが、実はそればかりではないのです。宮城県内にも、この枠組みを海外展開の足がかりとして積極的に活用している事業所があります。

そこで今号では、実際にこの制度を活用して海外展開している当所会員企業2社に、制度活用のきっかけや海外に展開するときの心構えなどを伺いました。

※ODA…政府開発援助

海外展開を目指す 中小企業にご活用 いただきたい制度です。

海外進出のステップとして

私どもが2012年から行っている「ODAを活用した中小企業海外展開支援」とは、日本の技術力をもって開発途上国でより良い社会づくりを進めるため、こうした技術を持つ中小企業の知恵をお借りしながら実現させていくという取り組みです。簡潔に申しますと、海外進出に関心のある中小企業の皆さまが、進出を想定される国で、想定される技術・製品に可能性があるか調査する費用等を支援させていただくものです。現在、400件を超える事業が採択されており、その中には宮城の防災・災害対策や福祉分野、農業開発、水の浄化や水処理といった9つの会社（内1社は企業共同体）の提案もあります。

私どもJICAの大きな特徴は、援助機関であるということです。従って「良い製品だから海外に売りに行く」のではなく、「中小企業が持つ技術や製品、サービスを、開発途上国が抱える課題解決に生かしていく」ことを応援させてい



独立行政法人国際協力機構
東北支部 (JICA東北)
支部長
村瀬 達哉 氏

ただこの、この事業の狙いです。支援メニューはいくつか用意していますが、例えば、対象国での情報収集を行う「基礎調査」、現地でのネットワークの構築などを支援する「案件化調査」、途上国の政府関係機関に対する「普及・実証事業」などといったものがあります。活用した企業を対象にしたアンケートによると、何らかの形で現在も現地で活動されている企業が約8割という結果が出ています。途上国の開発課題への貢献とともに、海外進出のステップアップの手段としても重要な役割を果たしているようです。

海外生活経験者を味方に

中小企業の皆さんが海外で事業展開するときのポイントですが、日本では当たり前の技術や製品が、海外では新しいもの、特別のものとして役立つことがあります。このことを念頭に置いていただきたいのです。そして、自社の技術や製品が、「どの国でどのように役立つのか」を調べてみてください。展開できそうな

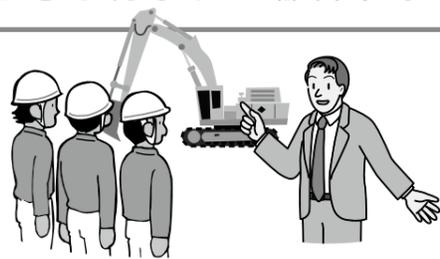
国にあたりをつけたら、その国のことをよく知っている方を探し出して、チームの一員になってくれるようお願いすることをお勧めします。実は、JICAが行っている青年海外協力隊の活動だけでも、この50年間で4万人以上の人が世界の国の半数に近い国々にわたり生活してきていますので、案外、皆さまの身近にも開発途上国に住んだ経験を持つ人がいるのではないかと思います。海外展開を考える際、ご自分がその国に行ったことがないとか、あまり詳しくないという場合には、そのような経験を持つ方を見つけて、つながること、対象国の情報収集もできるのではないかと思います。

それから世界の各国には文化や風習等、日本とは異なる部分が多々あります。JICAとしては組織で蓄積した開発途上国在住経験者のご紹介とともに、技術面を含めサポートしてくれる開発コンサルタントとのマッチング相談も行っていますし、JICAのホームページでは、過去の支援実績等が検索できるようになっています。

JICAは日本政府が各省横断的に広く推進している新輸出大国コンソーシアムの一員として、この東北でも関係機関とともに活動しています。皆さまのご提案をお待ちしています。
◎JICA東北 TEL 223-15151

JICA×中小企業の海外展開メニュー

- 基礎調査…現地進出に向けた情報収集や事業計画作成を行いたい。
- 案件化調査…自社製品・技術のニーズを検証したい。
- 協力準備調査…貧困層（低所得者層）向けビジネスを開発・展開したい。
- 普及・実証事業…自社製品・技術の有効性を実証し、普及したい。
- 開発途上国の社会・経済発展のための民間支援普及促進事業…自社製品・技術・システムを導入、普及したい。
- 草の根技術協力事業…NGO・大学・地方自治体等の経験や技術を生かしたい。
- 民間連携ボランティア…世界で活躍する社員を育てたい。
- パートナー…世界で活躍できる人材を自社で採用したい。
- 日本センター…現地の人材育成・確保に関する情報が欲しい。



島嶼国でこそ生かされる「ハイデガス」の品質と管理技術で海外展開を。

※島嶼国…領土が島で構成されている国

▼対象国／キリバス共和国

▽調査名／水硬性固化剤(ハイデガス)を活用した気候変動対策にかかる案件化調査



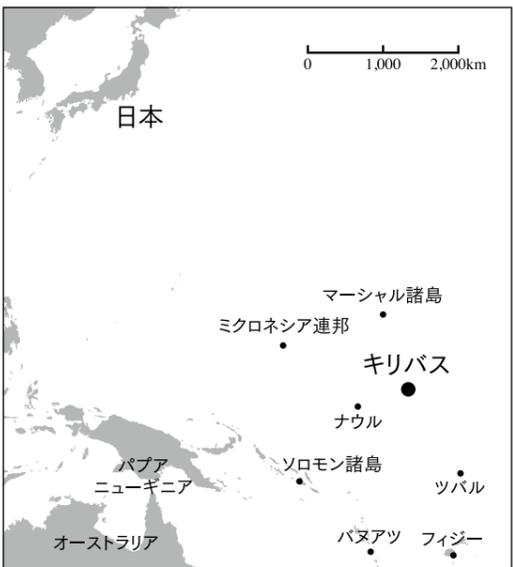
株式会社ハシカンブラ(泉区) 代表取締役 渡辺 元 氏

「今回、この支援を受けようと思ったのはなぜですか。」

「私どもは、橋の点検をはじめとして、道路や港湾といった構造物の点検・調査を行っています。私自身、大学で建設を学び、卒業後に青年海外協力隊の一員としてモロッコで3年間、土木工事に従事した経験があります。それが縁で、現在

も青年海外協力隊を支援する会に入っており、その壮行会で在日キリバス共和国名誉領事と出会ったことが、「ODAを活用した中小企業海外展開支援」を受けるきっかけになりました。

名誉領事から、「キリバスは気候変動などに起因する海面上昇によって水没の危機にさらされており、また海岸浸食が進み、護岸整備が急務となっている」というお話を伺いました。そこで、私と同じく青年海外協力隊の経験者という点で以前から存じ上げていた、土木地質(株)の顧問である橋本良忠さんから伺っていた「ハイデガス」のことを思い出しました。「ハイデガス」とは、セメントに代わる固化剤で海水練りも可能なことから、真水の少ない島嶼国でも施工が可能で、



「施工後のコンクリートは、耐海水性、耐硫酸性が高く、護岸等を構築しても長寿命化が望めるというものです。」

しかし、全体の費用がセメントの倍くらいになるので、日本のように真水や骨材に事欠かない国で使用してもあまりメリットがないということで、橋本さんはその使い道に悩んでいらつしやいました。ところが、真水や骨材が乏しいキリバスで「ハイデガス」を使うことは、トータルで見ると費用がかなり安くなるわけですね。この支援が成功すれば、同じ課題を抱えるツバルやフィジーといった太平洋の島嶼国でも役立つはずだと思いついて、エントリーしました。

「案件化調査」ということで、3000万円を上限に、事業計画の策定に協力してくださる「専門家の人件費」や、「現地でのネットワークの構築」などに対して支援を受けました。JICAに提出するための書類づくりの専門家と、現地で動いてくださる専門家は自分たちで探しました。そしてJV(ジョイントベンチャー・企業共同体)を組んだ土木地質(株)のエンジニアを含め、合計6人でチームをつくったのです。

「ハイデガス」を調整する役割を担い、将来的に、キリバスにおいて良い評価を得たいと考えています。

「支援の内容を教えてください。」

「現地でのネットワークの構築」などに対して支援を受けました。JICAに提出するための書類づくりの専門家と、現地で動いてくださる専門家は自分たちで探しました。そしてJV(ジョイントベンチャー・企業共同体)を組んだ土木地質(株)のエンジニアを含め、合計6人でチームをつくったのです。

「現地でのネットワークの構築」などに対して支援を受けました。JICAに提出するための書類づくりの専門家と、現地で動いてくださる専門家は自分たちで探しました。そしてJV(ジョイントベンチャー・企業共同体)を組んだ土木地質(株)のエンジニアを含め、合計6人でチームをつくったのです。

「足こぎ車いす」によるリハビリモデルを確立するプロジェクトができました。



株式会社TESS(宮城野区) 代表取締役 鈴木 堅之 氏

▼対象国／ベトナム

▽事業名／足こぎ車いすを利用したりリハビリモデル開発および、リハビリ人材育成プロジェクト／草の根技術協力事業

▽調査名／足こぎ車いすを利用したりリハビリプログラム導入案件化調査

「足こぎ車いす」とは、どのようなものですか。

さまざまなケガや病気で、歩くことができなくなってしまう方でも、この「足こぎ車いす」なら、どちらかの足が少しでも動かすことができれば、自分の両足でペダルをこげる可能性がります。実際に、この車いすでリハビリを行った結果、自分の足で歩くことができるようになった方もいらつしやるんです。

「ベトナムでの草の根技術協力事業に参画したきっかけを教えてください。」

この車いすは、平成20年に発表したもので、日本のリハビリ用具としては後発だったのですから、日本国内では受け入れてもらうことが難しい現実がありました。そんなとき、以前から交流のあったみやぎ工業会の方に「ベトナムに行ってみませんか」と声をかけていただいたのが、海外に目を向けたきっかけです。

ベトナムには、水頭症という病気の子どもたちがたくさんいること、彼らは柵のついたベッドで亡くなるまで寝たきりになっていたという話を聞きました。私は、そこに「足こぎ車いす」を持っていけば、寝たきりではなく、庭をサイクリングするように動くことができるかもしれないし、それが叶ったら、子どもたちはきっとそれを楽しんでくれるだろうと思つたのです。「楽しいリハビリ」は、私たちが目指すものでもあるんです。

「協力者はどのようにして集めたのですか。」

私はSNSを使ってベトナムに詳しい方を募りました。もともと、みやぎ工業会の方からカンボジアで仕事をしていたという女性を紹介いただいたいて、彼女が、私が知りたいと思つていることに関して詳しいと思われる方を絞り込んでくれました。その方々を通

「海外展開を考える中小企業の経営者の皆さんにアドバイス。」

「海外展開を考える中小企業の経営者の皆さんにアドバイス。」

「海外展開を考える中小企業の経営者の皆さんにアドバイス。」



ベトナムでの足こぎ車いすを使ったリハビリの様子

「海外展開を考える中小企業の経営者の皆さんにアドバイス。」

「海外展開を考える中小企業の経営者の皆さんにアドバイス。」